

私をそだててくれた上野の森

正会員 富本 克昭

求道学舎のリノベーション見学会の朝「わがまち・いえを語る」投稿集を読まさせていただき、わたくしも投稿してみました。

私が生れたのは向島で昭和19年8月ですから、生れて間も無く空襲で焼かれ、母にせおわれ荒川を渡り葛飾区高砂で育ちました。柴又帝釈天や矢切りの渡しなどは小・中学校時代なれ親しんだところでは。

高校を卒業し大学受験浪人生活をした時代、京成線高砂駅からお化け煙突をみながら日暮里を経由しJRうぐいす谷でおいる。少し歩くと国立博物館の柵と寛永寺の墓地の塀に挟まれた道沿いを進む寛永寺の門をすぎて左に折れ行くと、国立国会図書館支部上野図書館(旧帝国図書館、現在国際子ども図書館)があります。

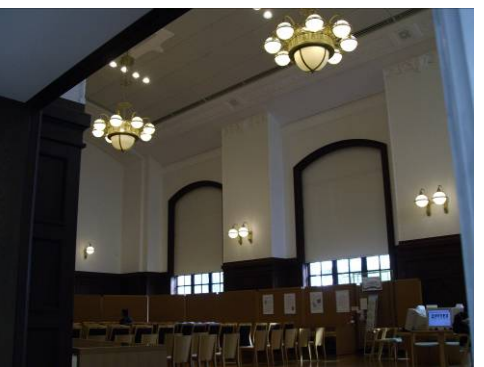
重々しい扉をくぐり鋳鉄製の手摺の大階段をのぼり3階にゆくとケヤキ材でできた木製の扉をあけ普通閲覧室に入る。天井・壁が漆喰装飾でできた大空間である、大きな机に笠のついた電球のスタンドのスイッチを入れる。赤尾の豆タンと5教科の参考書を積む、疲れると五木寛之の自伝を読む、九州から上京しはじめて泊まった所が早稲田大学の床の下であったとか生活に困ると血を売って生活を支えたといった文を読むと、なんだか心が癒された。又、少し疲れると大階段のルネッサンス様式の明治時代の西洋館で良く見られる優美な窓から東京国立博物館本館の屋根を望む。

昼になると地下の食堂に行き、タンメンやカレーライスをよく食べた。そこは弁護士のタマゴの溜まり場で、論を交えているのを横目でみていたものです。

10月の中旬頃になると、日曜日家ですごし月曜日図書館に向うとがらっと木々の葉が落ち景色が変わり、季節感を知った。その時期上野公園の広場で、芸大の仮装行列の催しものがあった。



○寛永寺の門



○国立国会図書館支部上野図書館



○旧因州池田屋敷表門



図書館から外へでると、東京芸術大学、東京都美術館がある。道路を左に曲がると、由緒ある旧因州池田屋敷表門に出会う。次に東京国立博物館正門に向う。噴水池広場を囲うように、国立科学博物館、国立西洋美術館、東京文化会館等、忘れてはいけない西郷さんの銅像がある。現在、東京都美術館のまわりにはホームレスのハウスがならんでいるのは残念である。

4月、受験シーズンがすみ若葉が芽吹くころ、噴水池のベンチに今年もきてしまったとの想いですわる。その時期上野公園は夜桜でにぎわう頃とおもうが、私の記憶にはない。

40年すぎ、平成19年4月27日午後4時、いきよよく噴きあげる噴水を、思い出深いベンチにすわって眺める……………。



○東京国立博物館



○上野公園の噴水池野図

